

2017年3月5日(日) 会場：谷中の家(東京都台東区谷中3-17-11)

「遺言 原発さえなければ」

福島の3年間 一消せない記憶のものがたり

第5章 遺言〈原発さえなければ〉 ＊第3章～第4章のアンコール上映もあります



福島を描いたドキュメンタリー映画の決定版

3時間45分—800日間の記録 を3回に分けて上映します

【1月5日：1～2章 2月5日：3～4章 3月5日：5章】

2011年3月12日、福島第一原発事故の取材現場に駆けつけた二人のフォトジャーナリストが、いち早く撮影を開始。以来、2013年4月まで、その土地の人々とともに過ごした日々を記録し続けた。

絶望の淵からの試行錯誤、もがきの中で気づいた家族、仲間、奪われた故郷への思い、そして見えてきた本当に守るべきものの存在・・・3年にわたり記録された250時間の映像が、3.11後の今を生きる私たちに問いかけるものとは——

監督 豊田 直巳、野田 雅也 (2013年)

3月5日(日) プログラム

14:15 開場

14:30～15:40 第3章 避難〈ご先祖さまを残して〉・第4章 故郷〈つなぐ想い〉アンコール上映

— 休憩・第5章受付開始(15:30～) —

16:00～17:15 第5章 遺言〈原発さえなければ〉上映

— 休憩 —

17:20～18:20 ゲストトーク (福島から避難中の方、避難者サポートをされている方のお話)

— 休憩・会場模様替え —

18:40～19:40頃 交流カフェ (軽食+1ドリンク付き)

★予約制です。詳細は裏面をご覧ください。

第1章 汚染〈取り残された住民たち〉

原発から30キロも離れた飯館村の人々は放射能汚染を予想していなかった。事故から2週間後、調査に入った今中哲二助教が村長はじめ住民たちに直ちに避難すべきであることを知らせる。酪農家や農家は出荷停止を命じられ、村全体の汚染が明らかになっていく。

第2章 決断〈酪農家人生の崩壊〉

飯館村が「計画的避難地区」に指定され、村人全員の退去が決まった。酪農家にとって避難は廃業を意味する。それでも子や孫の命と引き替えにはできない。長谷川健一たち酪農家は苦渋に満ちた決断をする。そして村から牛の鳴き声が消えた。

第3章 避難〈ご先祖さまを残して〉

初夏、風景は原発事故前と変わらない。しかし、目に見えない放射能は村人を追い立てた。住民の避難が始まったのだ。酪農家仲間たちも空になった牛舎を後に残し、福島市内へ、山形へ、そして遠く横浜へと離散していった。しかも家族はバラバラにされて。人々は改めて原発事故によって失ったものの大きさを知る。

第4章 故郷〈つなぐ想い〉

盛夏。離散した村民たちが、お盆の墓参りに合わせて飯館村に集まった。人々が助け合い成り立っていた村の暮らし。先祖代々守ってきた慎ましくとも豊かで、美しい暮らしと一体となっていた風景。それらが根こそぎ奪われた寂しさと哀しみ。それでも、次の世代に引き継いでいかなければならないものがある。引き継ごうとする若者がいる。

第5章 遺言〈原発さえなければ〉

辛酸を味わいながら避難した酪農家に、訃報の電話が入る。隣接する相馬市の酪農家仲間が自殺したのだ。駆けつけた長谷川健一。堆肥小屋の壁には、菅野重清がチョークで書き残した言葉があった。「原発さえなければ」「残った酪農家は原発に負けないで頑張ってください」と。その遺言を守るかのように酪農家たちは、新たな暮らしに挑戦する。しかし、故郷はいまも高濃度の放射能に覆われたままである。

【参加費／定員】

【上映2（第3章・第4章）アンコール】500円／定員30名

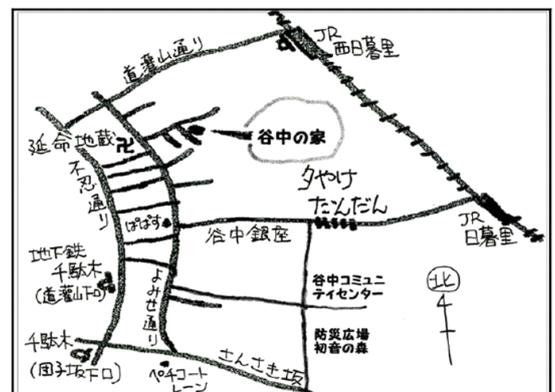
【上映3（第5章）】500円／定員30名

【トーク】500円（ゲストの活動へのカンパとなります）／定員30名

【交流カフェ】500円（軽食＋1ドリンク付き）／定員20名

【会場】谷中の家（台東区谷中3-17-11）

メトロ千代田線千駄木駅・JR日暮里駅・JR西日暮里駅下車徒歩7分。
よみせ通り、延命地藏を東へ入る、2筋目を南へ入って東側2軒目。
築54年の木造耐震補強民家。目印は格子戸。



【予約方法】 以下いずれかの方法で予約してください。

（3回分一括申込み済の方も、今回参加する内容の申込みをお願いします）

1. 申込みフォーム

【上映2（第3章・第4章）アンコール】 <http://kokucheese.com/event/index/455282/>

【上映3・トーク】 <http://kokucheese.com/event/index/455283/>

【交流カフェ】 <http://kokucheese.com/event/index/455285/>

* 上映2アンコール、上映3とトーク、交流カフェはそれぞれ別にお申込みが必要です。

2. メール eigasai@jtggt.info

* 件名を「3月5日の月1原発映画祭申込み」として、参加者氏名（複数お申し込みの場合は全員のお名前をお書きください）、参加内容（上映2アンコール、上映3、トーク、交流カフェ）を明記してください。

3. 電話 090-1265-0097（植松）、または 090-9492-0075（西川）

* トークと交流カフェは上映会に参加される方が優先となります。

* キャンセルされる場合は必ず事前にご連絡ください。